



武田尾温泉嵩上げ工事が進み温泉風景が一変した。



僧川合流点で大規模な拡幅工事が行われていた。



名塩川合流点鉄橋改修前



立派な手摺が付いて安全にはなったが景色も変わった。



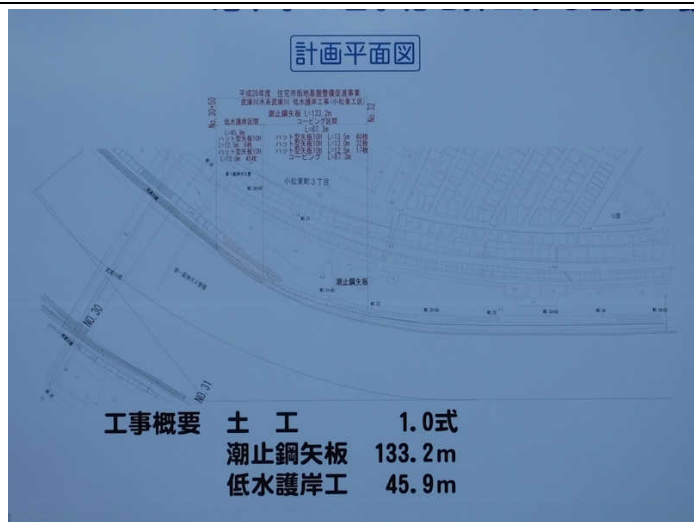
2014年台風11号の小規模な土砂崩れがあった現場



土砂崩落対策工事と樹木伐採で一変した風景。



武田尾旧温泉街の嵩上げ工事で昔の面影はなくなってしまった。立て続けに水害に見舞われた武田尾の嵩上げも終盤を迎え、僧川合流点付近の護岸崩壊原因の1つとされた僧川から逆流対策だろうが、合流部で大規模な拡幅工事が進められ、ハイキング道への橋が撤去され数迂回しなければならなくなっていた。樹木伐採、土砂崩防止、墜落防止対策で河原に降りることは出来なくなったが、誰でも何時でも安全に歩けるようになり、軽快な服装で犬の散歩に来る人や自転車乗りまで来れるようみなり、日暮れ間近になっても散歩する人の姿が絶えない。トイレは生瀬からの人には分かり易いが、名塩からの人には分かり難い場所にある。写真はハイキング道整備に伴い伐採された樹齢38年の赤松。



小松工区 潮止矢板 低水護岸拡幅工事説明図



小松工区工事現場 矢板打ちと低水護岸掘削作業始まる。



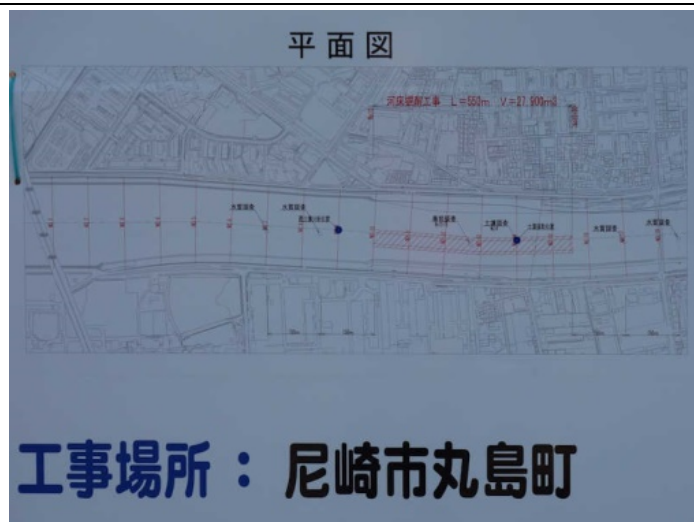
武庫大橋右岸下流側の堤防補強工事の様様



堤防上のエノキ大木が伐採され殺風景になった。



南武橋上流側で拡幅工事が始まった。



河口部で浚渫工事が始まった。

下流部で改修工事が進み堤防堤内側法面の樹木が伐採され、明るくなったような気がする。大きな切り株が残るところは確かに大木があった事が分かるが、切り株さえ無くなった所は以前の姿も忘れ去られ、何の違和感もなく、ずっと昔から変わらぬ風景だったと思われ、以前の風景なんか直ぐに忘れられてしまう。

武庫川橋は記録も案内板もないが、少し上流側に渡し場があった事が古地図から読み取れる。摂津名所図絵には細い橋が架かり川の兩岸に美しい松並が描かれ、今も昔も武庫川の風景になくしてはならない松並を大切にしたい。万葉集に「武庫川の 水脈を速みか 赤駒の 足掻く激たぎちに 濡れにけるかも」と謳われる急流だったが、幾重にも堰が造られたためか穏やかな流れに変わった。拡幅・浚渫・堤防補強・潮止対策工事が進んでいるが、かつての昔を知ってか、知らずか定かではないが、松並に並々ならぬ気遣いで工事が進められていることが感じ取られる。甲武橋下流側の2号堰ではアユ遡上を助ける試みも行われ、人にも生きものにも優しい改修工事を期待したい